

■前野良沢(蘭化) 蘭方医，蘭学者。「解体新書」訳出の中心的役割ながら名前掲載固辞，言語・地理学者に近い存在。

まえのりょうたく
火の見櫓制・1723＝ 江戸で，筑前藩士谷口新介の子に生まれる。

梅岩心学始・1729＝ 6歳：父が死去。これ以前に母も死去していたらしく，
母方の伯父で淀藩藩医の宮田全沢のもと，江戸で養育される。

享保大飢饉・1732＝ 9歳：
宮田全沢は，「医学知律」を著した学者であるが，「変り者」であつたらしく，良沢に「人というものは，世にすたれそうな芸能を習っておいて，末々までも絶えないようにすべきだ。いまの人が捨ててかえりみないことをやって，世のため，後世のため，残るようにせよ」と教訓したと伝えられている(「中津の歴史」)。尺八一節截や猿若狂言の稽古をしたり，後でオランダ語を学ぶようになったのも全沢の言葉や人柄が影響したといわれている。

・・・・・・1741＝18歳：

徳川吉宗隠居1745＝22歳：
従兄弟の中津藩医前野東元の養子となり，

忠臣蔵・・・1748＝25歳：東元が死去して，前野家を継ぐ。江戸で幼年の藩主奥平昌鹿に仕える。

・・・・・・1750＝27歳：
徳川吉宗没・1751＝28歳：
この間，一節截の秘曲を極め，

大武政治批判1759＝36歳：
大岡忠光没・1760＝37歳：

忠臣蔵大当り1766＝43歳：_この年以前，日本橋の長崎屋に和蘭通詞を訪問し，蘭語学習の希望を申し出ている。

久留米藩工事1768＝45歳：
・・・・・・1769＝46歳：*中津藩士からオランダの本をみせられ，発奮して蘭学を志し，青木昆陽についてオランダ語を習うが，昆陽が死去したため，藩主昌鹿の参勤交代の帰途に随行し中津へ帰った折，留学を願出て許可され，
・・・・・・1770＝47歳：_長崎へ出向いて吉雄幸左衛門・植林栄左衛門らに蘭方医術を学ぶ。長崎から帰る際に昌鹿の援助で蘭学の本を数冊購入しているが，その中に「ターヘルアナトミア」が含まれていた。昌鹿に従って江戸へ出，
御蔭参流行・1771＝48歳：この年，長女が夭折。この頃，「蘭語随筆」。「杉田玄白からの誘いで，千住小塚原でなされた腑分けを中川淳庵・桂川甫周らと見学，「ターヘルアナトミア」に照合し，記述と屍体の実状が一致したので，ともに同書の翻訳を志し，講明社を結成し，社長に年長の良沢，玄白が書記を担当し，翻訳がスタートした。

田沼意次老中1772＝49歳：
解体新書・・・1774＝51歳：*「解体新書」として出版した。「解体新書」の序文には，良沢の業績が高く評価されているが，巻頭の翻訳者名には，彼の名前はみられない。潔癖な良沢としては，充分な訳書ではないことへの自責の念から名前を出すことを固辞したといわれている。その後，オランダ語研究を深め，
・・・・・・1777＝54歳：*「管蠡秘言」を著し，藩主から常日頃蘭人の化物と呼ばれていたことから，蘭化の号を用いる。
この頃，「翻訳運動法」「測曜?図説」「八種字考」，
・・・・・・1780＝56歳：この年，大槻玄沢が入門する一方，蘭学研究を支えてくれた藩主奥平昌鹿が死去。

天明大飢饉始1782＝58歳：「輿地図編小解」，
この間，「字学小成」，
蝦夷初調査・1785＝62歳：「和蘭訳筈」，
田沼意次失脚1786＝63歳：

初の横綱・・・1789＝66歳：カムチャツカ半島に関する地誌「東砂葛記」翻訳。_高山彦九郎との親交始まり，酒を飲みながら談論。
異学の禁・・・1790＝67歳：桑名侯のためにか，「和蘭築城書」翻訳。この頃，「仁言私説」，
混浴禁止・・・1791＝68歳：一人息子が死去し，悲嘆。
ヲクスマン来日・1792＝69歳：古希に当り，杉田玄白還暦の宴に招かれる。この年，妻が死去。
松平定信引退1793＝70歳：ロシアの歴史「魯西亜本紀」を訳了。この年，_江馬蘭斎が入門する一方，高山彦九郎が自刃。

写楽・・・1795＝72歳：
_江馬蘭斎とはうまが合つたらしく，晩年のほとんど唯一の友となり，

次女に支えられながら，_長寿を全うし，

ｱﾘｶ船来航始1803＝80歳：*‘虚心石を友とす’という言葉を残して，没した。

東洋文庫「前野蘭化」，「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，「日本の群像」，平凡社百科事典，「本朝医人伝」，